

## —心豊かに生きるために—

前回は ～男女の役割を決めつけていませんか？～ ということで、女性の人権に関する内容を掲載しました。今回は、子どもの人権について考えてみます。

## ある日の出来事

## ～「わたしの大好きな お友だち」～

「遊びに行ってきたーす。」「行ってらっしゃい。今日は誰といっしょ？」  
「さやかちゃんとあかねちゃん。」わたしが言うと、「あかねちゃんも？」ママは、少し変な顔をした。

ママは、さやかちゃんのママと仲良しで、いつもかわいい服装をしているさやかちゃんが好きなの。でも、いつも公園でどろだらけになって遊んでいるあかねちゃんのは、好きじゃないのかな？

「この前、あかねちゃんと遊んで、お気に入りの服を真っ黒にしてたじゃない。」とママ。それでわたしはママに言ったの。「あのね、ママ。あかねちゃんは、いつもやりたいことがいっぱいなの。それにわたしにいろんな事を教えてくれるのよ。だから、わたしは大好き。じゃあ行ってきます。」

その後、その話を聞いたパパがママに「あの子はきちんと自分の気持ちを言えるんだね。」と嬉しそうに話してるのを聞いた。



〈考えてみましょう〉

ふだんの生活の中で「子どもなんだから」、「言うとおりにしなさい」と頭ごなしに子どもの行動を制限していることはありませんか。

基本的人権は誰もが生まれながらにして持っているものであり、当然、子どもにも大人と同じように基本的人権が保障されています。

子どもは、それぞれが権利を行使していく中で、どんなルールが必要なのかを学びながら、成長していくことができるのではないのでしょうか。

大人には、「今どきの子どもは---」と嘆いたり、子どもに一方的に考えを押しつけるのではなく、子どもを信頼し、子どもの「気づき」を待ち、成長を適切に支援していくことが求められています。